

国連生物多様性の 10 年日本委員会（UNDB-J）

令和元年度 事業実施結果

<方 針>

令和元年度は、平成 29 年に作成したロードマップに基づき生物多様性の主流化に向けた取組を推進するとともに、2020 年に向けて 10 年間の取組・成果と今後の進め方について整理・検討を行う。

<重点事業>

○未来へつなぐ「国連生物多様性の 10 年」せいかりレーの実施

2020 年 1 月より、1 年間を通じた「未来へつなぐ『国連生物多様性の 10 年』せいかりレー」を実施。キックオフイベントを、COP10 が開催された愛知県名古屋市の国際会議場において、愛知県及び名古屋市との共催により 1 月 11 日（土）～12 日（日）の 2 日間で開催。のべ約 7,300 人が来場。

1 月 11 日より、特設サイトを運用、せいかりレー参加イベントの登録・報告掲載を開始。

○ロードマップに基づいた取組推進

6 月に開催した第 9 回委員会で、昨年度の取組状況のフォローアップ結果を報告した。「自己評価」については、「A」評価（予定した取組を概ね実施できた）が 66、「C」評価（予定した取組を実施できず）が 4。

・ 100 万人の「MY 行動宣言」

【実績】

平成 30 年度末時点 : 約 22 万宣言

令和元年度末時点 : 約 24 万宣言

【当初計画】

これまでの取組に加え、様々な団体及び既存のイベント等との連携等を推進し、2020 年までに 100 万人の宣言を目指す。

【実施内容】

- ・ UNDB-J や環境省の後援名義使用を申請した団体や、個別に団体に MY 行動宣言の協力を依頼。
- ・ 「MY 行動宣言事例集」を作成・公表
- ・ 政府広報 BS 番組「徳光&木佐の知りたいニッポン！」において MY 行動宣言の呼びかけを実施。

・「生物多様性の本箱」300館プロジェクト

【実績】

平成30年度末時点 : 193館・施設
令和元年度末時点 : 232館・施設

【当初計画】

推薦図書「生物多様性の本箱」の常設・企画展示を行った図書館・施設等の数を2020年までに300館達成することを目指して、企業・自治体ネットワーク構成自治体への呼びかけを実施。

【実施内容】

- ・ 図書館流通センターが全国45箇所の図書館を主導し、企画展を実施。
- ・ 「生物多様性の本箱寄贈プロジェクト」で16都県16館・施設に寄贈を実施。

・「にじゅうまるプロジェクト」2020宣言

【実績】

平成30年度末時点 : 900事業
令和元年度末時点 : 1,054事業

【当初計画】

にじゅうまるプロジェクト実施主体の国際自然保護連合日本委員会と連携して、2020宣言を目指して、様々な場を通じて取組を周知。

・グリーンウェイブ2019の取組

【実績】

	参加団体数	植樹本数
2018年	2,891	約31万本
2019年	3,284	約33万本

※係数は平成23年（2011年）からの累計。

【当初計画】

これまでの取組に加え、関係機関と緊密に連携してオフィシャル・パートナーの任命等を実施し、参加団体の増加とパブリシティの促進を図る。

【実施内容】

- ・ ミス日本みどりの女神を「グリーンウェイブ大使」として任命し、グリーンウェイブへの参加呼びかけの強化を実施。シンボリックな行事として、5月19日に千葉縣市原市において、南市原里山連合・小湊鐵道・市原市と連携して『グリーンウェイブ2019記念植樹会』を実施（グリーンウェイブ大使が参加）。
- ・ 地方自治体や企業・団体等が主体となった「グリーンウェイブ」の呼びかけを強化するため、①登録促進、②広報、③寄付・協賛等を通して「グリーンウェイブ」の取組の活性化に寄与する地方自治体や企業・団体等を、「グリーンウェイブ」オフィシャル・パートナーに任命（新規登録団体、実施内容詳細については資料2-3のとおり）。オフィシャル・パートナーとの協働取組として、5月22日（国際生物多様性

の日)に福島県伊達市で開催された『JP子どもの森づくり運動「東北復興グリーンウェイブ」2019 in 福島』に「グリーンウェイブ」大使を派遣。

○ 2020年に向けた検討

国連生物多様性の10年の最終年となる2020年に向けて、10年間の取組及び成果の取りまとめ内容、せいかりレーの実施内容について検討。2021年以降の体制について検討を開始。

<個別事業>

★	新規事業・取組
☆	Iki・Tomo 推進事業
【 】	〃 推進事務局

1. 生物多様性に関する行動の呼びかけ

☆ (1) MY 行動宣言 5つのアクション・100万人のMY 行動宣言

※ 重点事業の報告のとおり。

☆ (2) 生物多様性アクション大賞による表彰【CEPA ジャパン】

91件の応募から、審査を経て5つの部門賞の他、特別賞を決定。12月の授賞式において5つの部門賞の中から大賞を環境大臣賞及び農林水産大臣賞として表彰。

環境大臣賞：エコガイドカフェ（宮古島市下地与那覇）
「ノータッチサンゴ」

農林水産大臣賞：群馬県立勢多農林高等学校植物バイオ研究部（群馬県前橋市）
「伝統食材『あかじゃが』『アワバタダイズ』
を活用した地域振興プロジェクト」

2. セクター間の情報交換・連携促進

(1) 国連生物多様性の10年日本委員会 地域フォーラム

各地域レベルでもUNDB-J各委員、認定連携事業の認定団体、各地域で活動する様々な団体等の連携による取組を推進するとともに、これまでの活動を振り返り、議論・共有するために、ワークショップ等を行うフォーラムを3月10日（火）に生物多様性フォーラム in 東京として開催予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大の防止という観点から開催を中止し、資料配付等の対応に替えて実施。

(2) 生物多様性全国ミーティング

- ・ 重点事業に記載したとおり、2020年1月11日（土）～12日（日）にせいかりレーのキックオフイベントとして「あいち・なごや生物多様性 EXPO」を愛知県名古屋市にて開催。シンポジウムには約1,700名、イベント全体では約7,300名の参加。
- ・ パネルディスカッションでは、CEPA ジャパンの川廷代表のコーディネートのもと、「生物多様性からSDGs時代を考えよう！」をテーマに、生物多様性とSDGsとの関係を踏まえてこれからどう取組んでいくかについて議論を行った。
- ・ シンポジウムでは、認定連携事業（第14弾、第15弾）の表彰式と生物多様性ユ-

スアンバサダーの紹介も行った。

3. 主流化に向けた活動プログラム

☆ (1) 「生物多様性の本箱」の普及啓発

＜「生物多様性の本箱」300館プロジェクト＞

※ 重点事業の報告のとおり。

＜本箱寄贈プロジェクト＞【日本自然保護協会等】

経団連自然保護協議会ほか、企業13社の指定寄付により、16施設(16都県)に「生物多様性の本箱」を寄贈。

☆ (2) 連携事業の認定【国際自然保護連合日本委員会】

UNDB-Jが推奨する連携事業を10月(第15弾)に9事業、3月(第16弾)に10事業認定。

☆ (3) グリーンウェイブ【国土緑化推進機構】

※ 重点事業の報告のとおり。

(4) 生物多様性イベント支援ツール

自治体、事業者、NPO等からの依頼に応じて、広報ツールの提供を実施。

平成30年度末時点 : 107件

令和元年度末時点 : 78件

4. 情報発信

(1) 令和元年 生物多様性関連情報 一斉報道発表

各セクター・委員において、5月22日の「国際生物多様性の日」周辺でのイベント行事開催の呼びかけ、および年内に開催するイベント・行事とあわせて取りまとめた報道発表を実施。

(2) 生物多様性マガジン「Iki・Tomo」

一般国民を対象とした普及啓発用少冊子として、自然の恵みを感じる生物多様性マガジン「Iki・Tomo」を2回発行。

Vol.18 昆虫とわたしたち

Vol.19 都市の身近な自然

☆ (3) 生物多様性.com【日本自然保護協会】

- ・ 日常の中で生物多様性の恵みを感じる機会を提供するためのウェブサイト運営。
- ・ 連携事業の認定団体やグリーンウェイブ活動団体について取組や紹介文を掲載。
- ・ せいかりレー特設サイトへの発信ツール提供。

(4) facebook「Iki-Tomo パートナーズ」

- ・ Iki-Tomo パートナーズへの新たな参画を関係者へ呼びかけ。
- ・ 認定連携事業や子供向け推薦図書をはじめとする UNDB-J の様々な取組のほか、UNDB-J 構成団体の取組、せいかりレーの登録募集等を広く発信。
- ・ 環境省の報道発表と連動し、イベント開催情報等を発信。

(5) UNDB-J ウェブサイト

全国ミーティング、地域フォーラム等のイベント開催情報や、MY 行動宣言や生物多様性の本箱、認定連携事業の実績等、UNDB-J の活動状況等を発信。

(6) イベント

みどりの感謝祭、グリーンチャレンジデー等へ UNDB-J の取組を発信する展示を出展。

<令和元年度実績>

日付	イベント名	主催者
4月29日	2019 新宿御苑みどりフェスタ	2019 新宿御苑みどりフェスタ実行委員会
6月1日 2日	エコライフ・フェア 2019	環境省
10月4日 10月5日	GTF グリーンチャレンジデー2019 in 新宿御苑	GTF 実行委員会
1月11日 12日	あいち・なごや生物多様性 EXPO	UNDB-J、環境省、愛知県、名古屋市
2月6日 ～11日	第19回さがみ自然フォーラム	厚木市・NPO 神奈川自然保護協会

5. 主流化推進チームによる広報・主流化

(1) 地球いきもの応援団、生物多様性リーダー

地球いきもの応援団の全国ミーティング等での出演を通じた普及啓発を実施。

<令和元年度実績>

日付	出演者(敬称略)	イベント名	主催者
6月2日	さかなクン	エコライフ・フェア 2019	環境省
8月8日	さかなクン	こども霞が関見学デー	環境省
8月18日	あん・まく どなると	つなぐ生物多様性 高校生チャレンジ カップ	愛媛県
10月19日	福岡 伸一	e-kamon まるごと環境フェア	美濃加茂市
12月6日	さかなクン	エコプロ 2019 特設ステージ	UNDB-J
1月11日	さかなクン	あいち・なごや生物多様性 EXPO	UNDB-J、環境省 愛知県、名古屋市

(2) 生物多様性キャラクター応援団

- キャラクター応援団への新たな入団を呼びかけ、登録。
 - エコたん(福島県)
 - ぬまたんち(群馬県沼田市)
 - サーモンくん・みやこちゃん(岩手県宮古市)
 - ハスのん(東京都町田市)
- イベントの機会を活用し、UNDB-J キャラクター「タヨちゃんサトくん」と開催地の

キャラクターが、今後協力して普及啓発に取り組むことを宣言する「生物多様性キャラクター応援団共同宣言式」を実施。

<令和元年度実績>

日付	キャラクター	イベント名	主催者
10月4日	エコたん ぬまたんち	GTF グリーンチャレンジデー2019 in 新宿御苑	GTF 実行委員会

6. 委員会等の運営

- ・ 委員会（6月）、幹事会（10月、3月（書面開催））、運営部会（5月、10月、2月（書面開催））を開催。
- ・ 寄付金の活用については UNDB-J 支援事業財務委員会（5月、3月（書面開催））と連携。
- ・ 2020年に向けた UNDB-J や構成団体の取組をまとめたロードマップに基づいた取組を推進。

【参考】

（1）UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）について

- ・ UNDB-J 活動を拡大するため、UNDB-J 構成団体による事業との連携が効果的な事業や、UNDB-J 構成団体からの提案事業等については、環境省（UNDB-J 全体の事務局）と調整のうえ、UNDB-J 推進事業（愛称：Iki・Tomo 推進事業）に位置づけ、当該団体内に事務局（愛称：Iki・Tomo 推進事務局）を設置。
- ・ 事業の実施にあたっては、UNDB-J 全体の事務局である環境省と連携しつつ実施。

（2）寄付協賛募集事業について

- ・ 事業規模の拡大等を図るため、事業の目的や趣旨に応じて、企業等に寄付協賛を呼びかけつつ事業を実施。
- ・ 例えば、「生物多様性の本箱」の各作品を寄贈するプロジェクトについては、各出版社への協賛（本の提供）の呼びかけや、企業等への寄付（寄贈式の実施費用の負担等）の呼びかけについても実施。